

街散歩

八重洲

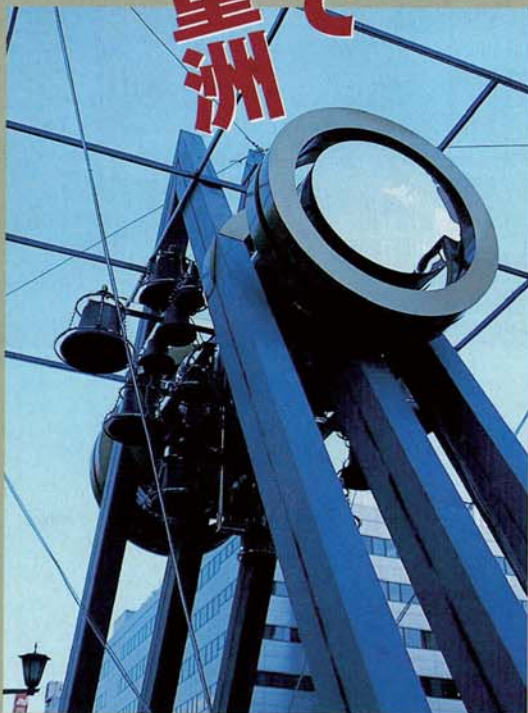
時の流れを偲んで
八重洲

日本を代表するビジネス街の一つとして、その名を知られる。八重洲。江戸時代には、東海道の起点・日本橋に隣接し、多くの人々で賑わったという。今では、一大ターミナル・東京駅とともに発展を続けるこの街を、久しぶりにゆっくり歩いてみた。



願かけ金次郎

▲八重洲ブックセンター入口に立つ金色の像。願いごとのある人は、この像に金箔をはれば願いごとがかんうという。代金は、福祉・文化事業に寄付されるが、果たして本当にご利益があるのだろうか…。



平和の鐘

▲1988年に平和都市宣言を行った中央区が、記念に設置したもの。オランダ製の26個のベルが、四季折々のメロディを奏でる。

ヤン・ヨーステン記念碑

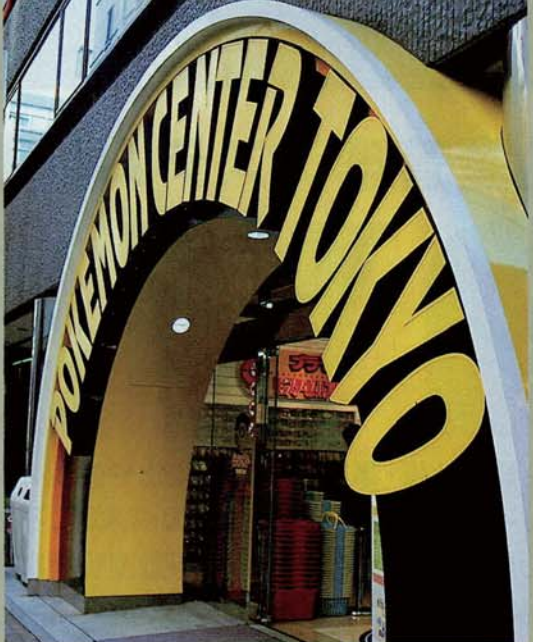
◀日蘭修好380周年を記念して作られたモニュメント。オランダ人航海士ヤン・ヨーステンは、1600年に豊後に漂着。その後、徳川家康の信任を得、朱印船貿易で活躍した。彼の屋敷があったところは「八代洲河岸」と呼ばれ、八重洲の地名の由来になったといわれている。



銀の鈴

▶東京駅名店街が寄贈したもので、東京駅の待ち合わせ場所として有名。12月から待合所がリニューアルするため、現在は通路の交差点に仮設中。お座布団に座っている鈴なんて、他ではお目にかかれなかも。





ポケモンセンター

◀正式名は「ポケモンセンター トウキョー」。アメリカでの人気を意識して(?)か、あえて“東京”をカタカナで表現している。店内には、ありとあらゆるポケモングッズが揃っており、休日は親子連れで賑わっている。



常盤橋門跡

▲江戸城の枡形門で、浅草口や追手口といわれた江戸五口の一つ。江戸城外郭の正門なので、大手口ともいう。1590年の架橋といわれ、江戸でも最も古い橋の一つ。1873年に撤去されたが、枡形の石垣が今も一部残されている。

今回の出発点、JR東京駅に降り立つ。駅構内は、東西南北あらゆる方向へ向かう人々で、いつものようにごった返している。まずは、駅の地下にある銀の鈴広場へ。ここは昔から、東京駅の待ち合わせ場所として有名なところだ。だが、行ってみると、広場はリニューアル工事中で、「銀の鈴」は通路の交差点にポツンと置かれていた。待ち合わせをする人もまばらで、仮設とはいえ少々寂しい。しかも、リニューアル完了後、鈴を元にもどすかどうか、まだ決まっていないという。これも、時代の流れなのだろうか。

気を取り直し、八重洲地下街を通して、今度は南口の八重洲ブックセンターへ。入口では、「願かけ金次郎」が迎えてくれる。これには昔から違和感を覚えるが、時間潰しにもってこいの場所であることだけは今も昔も変わらない。

そこから、地下に銀座線が通る中央通りへ出る。この辺りは、江戸時代には武家屋敷がまったくない町人の町であり、この通りは当時の東海道として、多くの人で賑わったという。ビジネス街となった今でも、八重洲に比較的中小規模のビルが多いのは、その名残であろうか。そんなことを考えながら日本橋の方へ歩いていくと、キリンが立つ大きな交差点に出た。

この中央分離帯には、八重洲の地名の由来といわれる「ヤン・ヨーステンの記念碑」と、中央区の「平和の鐘」がある。昔はここに川があり、中橋が架かっていたという。この分離帯からは、東京駅と大丸がひととき大きく見える。

大通りを歩くことに飽き、細い通りに入って見た。すぐに目に飛び込んできたのは、真っ黄色の看板。なんと「ポケモンセンター」の看板だった。オフィス街の一角に、堂々とキャラクターショップが出店する時代になったとは——時代の変遷を感じずにはいられない。

そろそろ昔の八重洲の面影が恋しくなり、ビルの谷間にひっそりと佇む「地蔵寺正徳院」を訪ねた。三方をビルに囲まれた境内の一角には、円形の絵馬“縁馬”が並ぶ。なんとも、縁起のよさそうな絵馬である。お参りをすませ、一石橋を渡って常盤橋公園へ。旧常盤橋は、江戸時代には江戸城外郭の正門として多くの人で賑わったというが、今では門の石垣だけがかるうじてここに残され、公園として保存されている。かつての賑わいは、微塵も感じられない。これも時の流れというものか——一抹の寂しさを覚えながら、400年の栄枯盛衰を肌で感じた一日であった。

参考文献：『江戸・東京 歴史の散歩道1』『同2』（街と暮らし社）
『中央区史跡散歩』（学生社）

地蔵寺正徳院

▶本尊日限延命地藏菩薩は、奈良時代の名僧行基の作と伝えられ、慈眼大師天海僧正の持仏だったといわれる。江戸中期の1718年の造立で、寺宝に「板絵着色お千世の図額」（区有形文化財）がある。



ツムラビル キリン

